

---

# 経済 TOPICS

No. 153

(2018年10月24日)

## 景気ウォッチング(要旨)

### I. 日本経済「景気は足踏み状況ながら、10～12月期以降は再び緩やかな景気拡大基調に復する見通し」

足許の日本経済は、世界景気の拡大テンポ鈍化に加え、自然災害集中(地震・台風等)もあって、輸出・生産の増加が小休止、個人消費も伸び悩んでおり、7～9月期の経済成長率はゼロ成長に近いとの見方が増えつつある。もっとも、成長の牽引役と期待されている設備投資の変調をうかがわせる指標は今のところみられず、10～12月期以降の日本経済は再び緩やかな景気拡大基調に復するとみられている。

金融市場では、9月後半から10月初にかけて円安が進行、株価も27年ぶりの高値を示したが、その後再び反落した。

### II. 米国経済「景気が一段と力強さを増すなか、金利は上昇傾向を強め、株価は一時史上最高値を更新」

米国経済は、昨年末に実施された大幅減税の効果等に支えられ、年率3%前後の高い成長を続けている。輸出は貿易摩擦の影響で足許やや減少しているが、景況感を示す指標はいずれも高水準にあり、年末商戦の大幅増も予想されるなど、年末に向けて景気は全体として一段と力強さを増していくとみられている。

金融当局は9月末に今次8回目の利上げを実施し、長期金利も7年半ぶりに3.2%水準まで上昇した。株価は、米中貿易摩擦懸念の後退期待が高まった9月下旬から10月初にかけて一時史上最高値を更新したが、その後再び反落した。



京都銀行グループ

京都総合経済研究所

---